

A 日 程

〈出典一覧〉

国語	西尾幹二	『ヨーロッパ像の転換』	新潮社
国語	山中裕 秋山虔 池田尚隆 福長進	校注・訳 『栄花物語』巻五「浦々の別」(『栄花物語』(1) 新編日本古典文学全集 31 所収)	小学館
国語	松村圭一郎	『旋回する人類学』一部改変	講談社
日本史		半済令(『建武以来追加』、原漢文)	山川出版社
日本史		観世能図(『洛中洛外図屏風』、部分)	国立歴史民俗博物館蔵
日本史	松澤裕作	『生きづらい明治社会 -不安と競争の時代-』	岩波書店
世界史		「ナポレオンの戴冠式」(部分図) ダヴィド作	ユニフォトプレスインターナショナル
世界史		「1808年5月3日」ゴヤの1814年の作品	ユニフォトプレスインターナショナル
世界史		「民衆を導く自由の女神」フランスのドラクロワの作品	ユニフォトプレスインターナショナル

問7
資本主義が周縁部では価値のない物を「翻訳」して富の蓄積へとつなげる」とあるが、この場合は具体的にどのようなことを意味するか、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 41

- ア 採取される場では資本主義的な価値を持たなかったマツタケも、移動していく先々で様々な価値づけをされるたびに利潤が積み重なっていくということ
- イ 現地では安価なマツタケが、グローバル・サプライ・チェーンを経て日本にたどり着き、高価な「商品」として消費されることを通じて、利潤を生み出すということ
- ウ 「戦利品」としてのマツタケを「商品」に、さらに「贈り物」に転換するためには費用がかかり、その対価を支払うことで利潤を得る者が生まれるということ
- エ 採取者・バイヤー・総合商社などの者たちが、国境を越えて経済的利潤を得るためには、双方の言語を正しく翻訳する必要があるということ
- オ 象徴的な価値を持つ交換品としてのマツタケは、その象徴するものを「戦利品」から「商品」「贈り物」に置き換えることで、最終的には利潤の象徴になるということ

- 29 -

問8
この資本主義は人間の営みだけで作動しているわけではない」とあるが、本文の内容に照らして「人間の営み」が関わっているとは言えないことを、次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 42

- ア 戦前の日本におけるマツ林の維持
- イ 北米由来の線虫の日本流入
- ウ 線虫の日本国内での拡散
- エ 東南アジア産の材木の日本流入
- オ 戦後の日本における広葉樹の繁茂

問9
ひとつの文化や社会の論評を前提としない」とあるが、アナ・チンの提示した新たな視点とはどのようなものか、本文中の語を用いて、「視点」につながる形で三十文字以内で説明しなさい。なお、「視点」は字数に含めない。解答番号は 43

- 30 -

問10
本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 44、48

- 44 ラトウールは、社会的なものを構築し得る意図や意味に満ちた存在を「アクター」と規定し、そこには人間だけでなく自然物や人工物も含まれると主張した
- 45 資本主義的な労働環境に馴染めない者たちが始めたマツタケ狩りも、グローバル・サプライ・チェーンの出現後には資本主義的な労働環境になってしまう
- 46 マツタケをめぐるグローバル・サプライ・チェーンの構築において、戦後日本の総合商社は、海外でマツタケが採集されるようになる役割を担った
- 47 人間がマツやマツタケの生態のことなど考慮せず、思いのままに森林を伐採した結果、日本におけるマツ林の衰退を加速させた
- 48 グローバル・サプライ・チェーンによりサルベージ・アキュミレーションが促進されるが、そのさまざまな局面に「アッセンブリッジ」が確認できる

- 31 -

問1 社会的なもの(①)は人間だけで構成されているわけではないとあるが、この考え方を、端的に言い換えている部分を本文中から十字以内で抜き出し、記しなさい。解答番号は 35

問2 アクター・ネットワーク・セオリー(ANT)とあるが、これはどのような立場に立つ理論か、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 36

- ア 社会は人間だけでつくられているのではないため、自然や人工物にもはっきりとした役割を与えるべきだという立場
- イ 社会を成り立たせているのは人間ではなく、人間以外のモノこそが重要な「アクター」としての役割を担うとする立場
- ウ 社会を中心的に動かすのは意図や意味に満ちた人間であるため、モノと社会との関係はまだ解明されていないとする立場
- エ 人間がつくりだした「社会」や「文化」の領域に、モノが「アクター」として参与することを積極的に受け入れようとする立場
- オ 社会的なままとまりは、人間と人間以外のモノがさまざまな結びつきを構成することで成り立っているとする立場

問3 「まがい物の非対称性」③とあるが、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 37

- ア 自然物や人工物も、人間と同じく「アクター」の一員となり得るが、それはANTの第一の要件を満たした場合に限られる
- イ 社会的なものを構成するかどうかという点において、人間とモノは釣り合わないと思えられてきたが、それは事実ではない
- ウ 人間もモノも同様に社会的役割を担っていると想定できるが、固定した役割ではないという点で完全には一致しない
- エ 意図的な行為という側面は人間に特有であるが、意図を持たないモノが構築する因果関係も、意図に準ずる機能を持つ
- オ 人間とモノとの違いとして意図的な行為と因果関係を位置付けたが、この二つの概念が実は対称をなしていない

問4 世界は人間と人間以外の存在によって制作(④)されているとあるが、傍点によって筆者が強調するのはどのようなことか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 38

- ア 世界を維持するために人間以外の存在も尽力しているということ
- イ 世界を制作する意図を持っているのは人間に限らないということ
- ウ 人間は、世界を制作する者ではなく、制作された側だということ
- エ 世界は、あらかじめ存在しているものではないということ
- オ 世界の制作には、人間以外の存在が大きく関わっているということ

問5 空欄 A・B・C にはいる語の組み合わせとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 39

- ア ただし——だが——そのため
- イ しかし——じつは——ときには
- ウ そして——とはいえ——つまり
- エ しかも——いまや——ところが
- オ あるいは——もともと——たとえば

問6 使用価値のある商品とは異なる「贈り物」⑤とあるが、これが意味するものとして、適切なものを次の中からすべて選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 40

- ア 人と人とのあいだの売買によって得るのではなく、人が自然との関係から与えられるものである
- イ それ自体のモノとしての実用性とは別に、それを得たこと自体に価値があるものである
- ウ 貨幣による交換ではなく、競争で強い技術を逆手にとつて富を取り返したものである
- エ 使用価値が見出されなため商品化できず、無償で贈るほかに用途のないものである
- オ 一定の尺度をもって「価値」という形で数値化・相対化することが不可能なものである

第三問 【選択問題】 現代文

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語については、注を参照しなさい。

ラトウールやモルなど、近代的な科学や医療を研究対象とする人類学は、あらたな社会像を提示してきた。それが、社会的なものは人間だけで構成されているわけではない、という視点だ。人間が作り出した「社会」や「文化」の存在を前提とする人間中心主義が批判された。ラトウールは、みずから提唱するアクター・ネットワーク・セオリー(ANT)の第一の要件は「非人間にはできりとした役割が与えられているのかどうか」と述べている。ここでは、自然物や人工物は人間と同じ「アクター」の一員となる。

ラトウールは、人間の意図的な行為が因果関係からなる物質世界とのあいだに「まがいの物の非対称性」が押しつけられてきたと指摘する。モノは物質的で因果的な関係に存在し、社会を動かすのはもっぱら意図や意味に満ちた人間の社会関係の領域だと考えられてきた。そこでANTは、いかに人とモノがともに「アクター」として行為に参与しているのかを徹底的にあきらかにしようとした。科学者の実験室では何が行われているのか。ラトウールはそれを実験器具や動物、数字や図表といった人間ではないものとも人間の結びつきで「事実」が構築され、無秩序から秩序が創造される過程として描き出した。モルも医師と患者が書類や制度などさまざまなモノとともに病室という出来事を「行う」ことに参加していると論じた。

社会は人間だけでなく、人間以外のモノが重要なアクターとしての役割を担っている。A それらのアクターは「社会的なもの」(組織や階級や民族など)というあらかじめ固定した枠組みの構成要素として動いているわけではない。さまざまなアクターがネットワークのなかで結びつくことで、そうした社会的なまとまりが現実のものとなっているのだ。この徹底した脱人間中心主義が二世紀の人類学のあらたなスタンダードとなった。

④ 世界は人間と人間以外の存在によって制作されている。この視点で書かれた代表的な民族誌がアナ・チンの『マツタケ』(二〇一五年)だ。本書には二つの柱がある。一つはグローバル世界に広がる「資本主義」、もう一つは、人も含めた複数の動植物種が互いに関係しあい、依存しあう「複数種」の世界。それらが絡まり合い、世界を制作している。チンは、この絡まりを「アッセンブリッジ」という概念でとらえた。それは人間も非人間も、多様な種が出会い開かれた集まりだ。そこは純粹に生態学的なものではない。資本や国家が作用する政治経済の場でもある。

古くから日本で食われてきたマツタケは、B そのほとんどが海外で採られている。著者は、米国オレゴン州カスケード山脈東部のマツタケ採取現場に足を踏み入れる。そこでマツタケを採っていたのは、東南アジアの山地民だった。インドシナ戦争でフランス軍に訓練を受けたラオスのモン人は、ベトナム戦争でCIAの援助をうけて米国のために戦い、米国の撤退とともに「難民」となった。そこに中国やタイなどの国境を越えて移動するミエン人も加わった。彼らは戦争で身につけた技術を活用して森でのマツタケ狩りを生業にしている。

わずかな白人のなかにはベトナム戦争の退役軍人もいた。戦争のトラウマを抱え、資本主義的な労働環境になじめない者たちが、政治・経済システムからの「フリーダム」を求めてマツタケの森に集まった。彼らにとってマツタケは、そのフリーダムの「戦利品」であり、象徴的な価値をもつ交換品だった。メラネシアの贈与交換のように、それは使用価値のある商品とは異なる「贈り物」だった。

C その「戦利品」のマツタケも、夜が明けないうちにまったく別物に「翻訳」される。バイヤーが雇う臨時雇いの作業員がたんたと仕分けして保冷剤とともに木箱に詰まると、マツタケは資本主義市場で流通する「商品」と化する。そして国際的なサプライ・チェーンを通して日本にたどりつく。それは再び科学者の接待や結婚式などで供される「贈り物」になる。「戦利品」のマツタケが「商品」に転換され、再び「贈り物」に転換される。この複数の「翻訳」が商品の流れを加速させ、利潤を生み出す。

チンは、これこそが資本主義の特徴である「サルベージ・アキユミレーション」だと論じる。沈没船が引き揚げられ鋼材として再利用されるように、資本主義が周縁部では価値のない物を「翻訳」して富の蓄積へとつなげる。このグローバル・サプライ・チェーンの構築に役買ったのが、戦後日本の総合商社だった。商社の日本人は現場に入らず、多重の下請契約を活用して現地代理店に商品を手交させた。こうしてインドネシアでの木材の違法伐採も可能になった。

しかもこの資本主義は人間の営みだけで作動しているわけではない。そもそも日本でマツタケが採れなくなった背景には複数の動植物の働きがあった。二〇世紀初頭、米国から輸入されたマツと、一緒に線虫が長崎港に上陸。自分で移動できない線虫はカミキリ虫に運び移り、日本中に広まった。苗類の子実体であるマツタケはマツを宿主樹木にし、胞子を放出して増殖する。マツは荒廃した開けた土地で育ち、人間の攪乱で維持される。広葉樹が増えたと弱ってしまう。

戦後、日本の総合商社の働きで東南アジアから安価な木材が流入すると、日本の山林は放棄され、広葉樹が繁茂した。そうして弱ったマツに北米由来の線虫がとりついてマツが枯れ、マツタケも姿を消したのだ。結果として、それがオレゴンの森に冷戦下の戦争によるトラウマを抱えた者たちにとってのフロンティアを生みだし、グローバルな資本主義のサプライ・チェーンを出現させた。まさにさまざまなものが幾重にも絡み合っている。

チンは、米国だけでなく、中国・雲南、日本の里山、フィンランド北部のマツ林、各国のマツタケ研究者や林野局などを訪ね歩きながら、現代的な資本主義の「歴史」が複数種の偶然の協働Ⅱアッセンブリッジによって織りなされていく様を克明に描いた。彼女のマルチ・サイトなフィールドワークの手法自体が、ひとつの文化や社会の輪郭を前提としない比較の視点を体現している。まさに新時代の民族誌だ。

(松村圭二郎『旋回する人類学』)

注

- *ラトウール……………ブルノ・ラトウール(一九四七―二〇二二年)、フランスの哲学者・人類学者・社会学者
- *モル……………「アメリカー・モル」(一九五八年)、オランダの人類学者・哲学者
- *アナ・チン……………一九五二年、アメリカのフェミニズム研究者・人類学者
- *インドシナ戦争……………一九四六年から七年間、旧フランス領インドシナの独立をめくり、フランスとベトナム民主共和国との間で戦われた戦争。第一次インドシナ戦争。
- *ベトナム戦争……………ベトナム統一をめぐる戦争で、一般的には一九六五年から八年間、アメリカ、南ベトナム政府軍と北ベトナム、南ベトナム解放民族戦線との間に戦われた戦争のこと。第二次インドシナ戦争。
- *メラネシア……………太平洋の南西部、オーストラリアの北東部にある島々の総称
- *サプライ・チェーン……………製品の原材料・部品の調達から、製造・物流・販売・消費までの全体の「連の流れ」のこと。供給網

問2
①「なごてか。なほもろとも」のことははめられた上の気持ちとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 23

- ア 参内の仕度が整わなくても構わない
- イ うわさを気にして遠慮しなくてもよい
- ウ 女院の思惑は大したことではない
- エ 若宮の母でもある宮にも会いたい
- オ 若宮だけの参内は不安でよくない

問3
②かの二位のそのかきこえしこととあるが、宮に参内を勧めた二位の決意を後押しした根拠として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 24

- ア 自らが老いて若宮を養育できないと思ったから
- イ 定子の兄弟が配所から戻る見込みが薄かったから
- ウ 祈禱によって宮に皇子が誕生する夢をみたら
- エ 世間の人々が上と若宮との対面を期待したから
- オ 手紙よりも宮に直に伝えた方が漏れないと思ったから

問4
③大願 に対する作者の評価が表れている一文を本文中から抜き出し、はじめとおわりの三字を記しなさい。解答番号は 25

問5
④「まづ知るもの」の箇所は、『古今和歌集』の「世の中の憂きもつらきも告げなくまづ知るものは涙なりけり」をふまえている。これを参考にして、若宮と対面した女院の心情を示す傍線部の解釈として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 26

- ア 涙は若宮へのいとおしさをことばよりも先に示す
- イ 宮をも哀れに思う切なさに涙が溢れこぼらならない
- ウ 涙の種になる若宮と対面したことが辛くてならない
- エ 若宮の今後を憂い涙が溢れ出るのをとめられない
- オ 若宮との束の間の対面が切なく涙が溢れ出てしまう

問6
⑤男におはしまさましかばとぞ、人知れず思しめしけるを、適宜主語を補って現代語訳しなさい。解答番号は 27

問7
⑥「かたはらいたげなり」は、誰のどのような様子を表しているか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 28

- ア 上の言動をこゝろになつた女院が腹立たしく思った様子
- イ 若宮がむずかるのをあやせない上が途方にくれた様子
- ウ 取り乱された上の行いに宮もお困りになっている様子
- エ 上の思い煩うお姿に明順も道順もいたたまれない様子
- オ お側の女房たちは上が退出なさらないので困った様子

問8
本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 29、30、31、32、33

- 29 二位は宮から参内の相談がなされないことを残念に思っていた
- 30 献上された絹だけでは宮と若宮の参内の準備は整わなかった
- 31 参内の際には出家した宮が引目を感じないよう配慮がされた
- 32 参内は果たしたものの、若宮の今後を憂えて宮の心は重かった
- 33 今回の参内をきっかけに上の宮への愛情は呼び戻されていった

問9
『茶花物語』と内容的に関わりがない作品を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 34

- ア 枕草子
- イ 大鏡
- ウ 紫式部日記
- エ 和泉式部日記
- オ 土佐日記

問2 次の空欄 X にはいるものを、ア～エの中から1つを選び、その記号をマークしなさい。解答番号は20

X 百まで踊り忘れず

- ア 雀 イ 蛙 ウ 鼠 エ 狐

問3 次の傍線部のカタカナに該当する漢字の総画数として、もっとも適切なものをア～エの中から選び、その記号をマークしなさい。字体は常用漢字として採用されているものとする。解答番号は21

正真正正

- ア 六画 イ 八画 ウ 十一画 エ 十四画

第二問 【選択問題】 古文

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句については、注を参照しなさい。〔これまでのあらすじ〕

一条天皇(上)の中宮定子(女)の父関白藤原道隆が死去すると、藤原道長(大)の台頭によって、定子の兄弟は左遷され、定子の一族は没落していく。定子は宮中を退出して、髪を下ろし、椅子内親王(若)を出産する。定子の祖父高階成忠(二)は、一条天皇と内親王との対面を果たすために、定子に参内を勧める。(文章は二位のことからはじまる。)

「たびたび夢に召し還されるべきやうに見たまへるに、かく今まで音なくはべるをなむ。なほさるべう思したらて内裏に参らせたまへ。御祈りをいなしう仕うまつりて、寝てはべりし夢にこそ、男宮生れたまはむと思ふ夢見ではべりしかば、このことによりて、なほ疾く参らせたまへと、そのかし啓せさせむと思ひたまへられたるなり。御文にては落ち散るやうやと思ひたまへてなん」などぞをそのかし、泣きみ笑ひみ夜一夜御物語ありて、睡には帰らなまひぬ。宮の御前の、内裏参りのこと、そのかし啓しつるを思したたせたまへる。明順、道順、よつづにぞそきたてまつる。国々の御封など召しものすれど、はかばかしくもすがやかにわきまへまうす人もなければ、さるべき御庄などぞ、「細など奉らせん」と案申す人ありければ、細召してよろづにいそがせたまふ。宮おはしますたびなれば、よろづ御けはひ異なり、御興などは古体にあるべきことなれば、御車にてぞ思しめしたる。いといとつつまし宮思しめしたれど、「なほもどもど」と聞えさせたまへば、かの二位のそそのかしくいへしことあれば、さはとて、もろとも参らせたまふ。人の、口やすかるまじう思へり。

かくて内裏に参らせたまふ夜は、大殿、さるべき御前参るべきよし仰せらるれば、みな参りたり。殿の御心さまのいみじうありがたくおはしますことかぎりなし。かく参らせたまへば、女院いつしかと若宮抱きだてまつらせたまへ、いとつづくしうおはします。うち笑みてあはれに見たてまつらせたまふ、いとをかしげに肥えさせたまへり。御物語なにとなくもはなやかに申させたまへば、まづ知るもの思さるべし。宮よろづにつつましきことを思しめすに、院と御対面ありて、尽きせぬ御物語を申させたまふほどに、上渡らせたまひて若宮見たてまつらせたまふ、えもいはずうつくしうおはしまして、ただ笑ひに笑ひ御物語せさせたまふ。上の御前は、今まで見ざりけるよと思しめすに、まづ御涙もつかせたまふべし。まして、男におはしまさましがほどぞ、人知れず思しめしける。さて宮に御対面あるに、御几帳引き寄せていと遠くもてなきえたまへるほどとわりなれど、御殿油遠くとりなして、隔てなきまに泣きみ笑ひみ聞えさせたまふに、古になほたちかへる御心の出でくれば、宮、「いと」といけしからぬことなり。など、よろづに申させたまへど、それを聞しめし入れぬさまに乱れさせたまふほど、かたはらいけたり。(栄花物語)

注

- * 召し還される……定子の兄弟が配所から召還される。
- * 泣きみ笑ひみ……泣いたり笑ったりして。
- * 明順、道順……高階成忠(二)の子。
- * ぞそきたてまつる……急いで参内の仕度を上上げる。
- * 国々の御封……皇族・諸臣の官位や勲功によって賜る封禄で、徴取には国司があたる。
- * はかばかしくもすがやかにわきまへまうす人……命令に応じて参内の費用を国から徴収して納める国司。
- * さるべき御庄など……定子の兄弟が所有していた荘園。

問1 傍線部 A～E の「たまたま」の中で、敬語の働きが異なるものを1つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は22

- ア 参らせたまへ
- イ 生れたまはむ
- ウ 思ひたまへられて
- エ 帰られたまひぬ
- オ 思したせたまへる

問 8 複製画的^⑦とあるが、それはどのようなことを表現しているか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 9。

- ア 日本人の期待に合わせる形で展示された本物は、鑑賞する前から形成されたイメージを複製し、来場者に再確認させる契機にかなりえないということ
- イ 知識を強いて、感動を奪おうとする美術館の展示姿勢は、本物を展示していても本物ゆえの感動をもたらすこととはなく、複製画を超える効果はなにもつけないということ
- ウ オリジナル作品の一部をもってレプリカを知ろうという企画自体が、複製画という限られた環境から対象を知ろうとする姿勢と変わらないということ
- エ 一部のオリジナルを見て、その作品に感動するのではなく、展示されていないレプリカの最高傑作を想像することになる点において、複製画から脱却できないということ
- オ 空想と現実の区別が容易につかなくなってしまう日本人にとっては、現実の作品を目にしても、それが複製画と何が違うのか、区別がつかないということ

問 9 空想が豊富であっただけに、純粹な感動はそれだけ得にくくなっている^⑧とあるが、それはなぜか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 10。

- ア 本物が見られずに空想している間に期待が大きくなり、本物に出会ったときには期待したほどの感動が得られなくなっているから
- イ 自分でその対象を価値づけた結果、本物そのものに対してではなく、本物を見ることに感動してしまうから
- ウ 写真や文献を通して積み上げてきた知識は思考を論理化し、感受性のような曖昧な心の動きを妨げてしまうから
- エ 代用品を鑑賞する時間が長いと、空想と現実の区別がつかなくなり、空想上の本物に食傷してしまうから
- オ 本物のあり方はひとつではないのに、多様な空想をして感動してしまったら、本物を見る前に感動の可能性は尽きてしまうから

問 10 知識をもっている日本人ほど感動と感傷とを混同する^⑨とあるが、「感傷」に陥らないようにするにはどのような姿勢が必要か、三十文字以内で説明しなさい。解答番号は 11。

問 11 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 12、16。

- ① 絵画は、それがいくら傑作であっても、美術館に並べられている限り美的感動は得られない
- ② 複製品をもつてしか接触できなかったという制約が、西洋美術への安直な体験を語らせる主因となっている
- ③ 経験は純粹な美的感動を邪魔するため、経験を重ねると西洋美術の理解から遠ざかるといふ皮肉な結果がもたらされる
- ④ 代用品が中心で本物に触れる機会が少なかったために、美術に関する日本人の「自己」の形成には、限界があった
- ⑤ ある評論家の文章で語られた、バルテノン神殿を見たときの思いは、筆者に言わせれば「感傷」に浸っていたにすぎない

(二) 次の問いに答えなさい。

問 1 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれ各群の A、E の中から一つずつ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 17、19。

- ①7 交通のヨウシヨウ
- ①8 論点のケツジヨ
- ①9 遺ロウがないか確認する
- ア シヨウサイを説明する
- イ 人心のシヨウアク
- ウ ショウドウ的に笑う
- エ プライベートにカンシヨウする
- ア ジヨサイない対応
- イ ジヨコウ運転
- ウ 紳士シユクジヨ
- エ 壮大なジヨジ詩
- ア 時間をロウ費する
- イ ロウ電に注意する
- ウ 画ロウの主人
- エ 砂上のロウ閣

問2
① 自分の感受性の頼りなさをかみしめた」とあるが、「感受性の頼りなさ」について筆者はどのように考えているか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は③

- ア 自分の感受性が頼りないために、残念ながら美の判断が固定しない
- イ 感受性は頼りないものであるため、それを排除した判断が必要である
- ウ 感受性が頼りないうちは、作品に触れても真の美的感動は得られない
- エ この感受性の頼りなさこそが、美的感動にとって重要なものである
- オ 人間の感受性の頼りなさを超越できる点においては美術館を認めざるを得ない

問3
② 幻影」とあるが、それはどのようなものを指すか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は④

- ア 見る者の内的状態によって変化する、作品の見え方
- イ 絶対的なものだと思いつまれている、作品が持つ美
- ウ これからついに実物を見ることができ、作品への期待
- エ 本物に出会うまでに蓄積された、作品についての想像
- オ 後年の歴史によって創造されたにすぎない、作品の価値

問4
③ 小林秀雄 の作品を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑤

- ア 歌よみに与ふる書
- イ 蟹工船
- ウ 無常といふ事
- エ 五重塔
- オ 月に吠える

問5
④ 翻訳を通じてドストエフスキーを論じ、レコードを頼りにワグナーに感動してきたわれわれの教養の在り方とあるが、美術についてはほぼ同様の教養形成のしかたを表現している箇所を本文中から三十文字以内で抜き出し、はじめとおわりの五字を記しなさい。解答番号は⑥

問6
⑤ 代用品を食って酔うことが出来たという事実の一回性を軽んじてしまえば、本物に出会ったとき、感動の純粹さを期待することさえ出来ないだろう」とあるが、ここでの筆者の考えを説明したものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑦

- ア 代用品に感動してしまったという事実を、たった一回の間違いだからという理由で反省しようとしないう姿勢からは、本物に純粋に感動できる感受性が磨かれることはない
- イ 代用品に対してであつても感動できる感受性と、実際そのとき、そのように感動したという経験を大切にすると、姿勢がなければ、真の意味での感動を味わうことはできない
- ウ 代用品は、そのもととなった本物の存在を投影しているのであり、代用品で感動できないのなら、本物も感動するに足るものではない
- エ 代用品に心酔したと自称は恥ずべきことではあるが、そういう一回ごとの経験の蓄積をしなければ、本物に感動する力は身につかない
- オ 代用品であつても感動すべき作品に多数触れられるのは恵まれた環境であり、そのような環境にいなければ感動すべき本物を見極める目も養えない

問7
⑥ 「教養人」にすぎない私」とあるが、筆者にとってここでの「教養人」にすぎないとはどのようなことか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑧

- ア 作品について外側から語るのみで、自ら作品を生み出すわけではない
- イ 美術館で感じた孤独を説明できるだけの表現力も持ち合わせていない
- ウ 本質を理解できないまま、知識や経験だけを積み重ね続けている
- エ 美術館訪問の回数を重ねてゆく度に、作品に対する見方を変え続ける
- オ 感動というような曖昧なものを否定し、理性や知性を重視してしまう

第一問 【共通問題 現代文】

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語については、注を参照しなさい。

美術館という組織力は、「知識」を養うために存在するかのようになり、私には驚愕だった。

美術館という組織力は、「知識」を養うために存在するかのようになり、私には驚愕だった。
というの、ここでは、「美」があたかも不動の、絶対的の顔つきを帯びていて、美もまた、人間の感性という曖昧な武器を支えられて、辛うじて存在しつづけている不安定にして、流動的なものではないだろうか。恐ろしいような傑作が目白押しに並んで、たがいに効果が相殺されてしまう。フィッチやプラドの内部をいくとも往き来しているとき、私を襲ったのは、ただ、説明のしようもない孤独感だった。私が口もきけなくなるような「美」の放射能を浴びていたというのなら幸いである。そういう瞬間もあればこそ、美術館はくりかえし私にとって、旅の唯一の誘惑であった。が、美的感動とは、じつに気紛れで、相対的なものである。永年あつがれてきた作品の前に立つたとき、偶然、頭痛でも起していたりもうお仕舞いである。その反対に、同じ美術館を二度訪れる幸運にめぐまれ、一年位の間感動の質がまったく変わっていることに気づいて、私は自分の感性の細りなさをかみしめた。だが、「美術館」の方は前に見たときと少しも変わっていない。おそらく十年後にまたたび訪れて同じことだろう。「保存」という近代的な意志にささえられて、「美」があたかも絶対的なものであるかのように、無教に蒐集され、陳列され、静止している美術館では、作品の美もまた後の歴史が不断に創造しているのだという事実を忘れさせやすい。一枚の絵はカンヴァスと絵具から成り立つ物質でしかないのである。多くの日本人がこらみているヨーロッパ美術行脚も、イタリアから北上してフランスへ行ったか、フランスを見てからイタリアに南下したか、旅の行程に応じて幻影が織りなす感動の質も変わってこよう。だが、頼りべきものは、その感動の人間のあやふやさ以外にはないのであって、作品とは幻影であり、けっして実体ではないことを忘れてはならない。

私がフィレンツェを再訪した五カ月前にアルノ河が氾濫し、街のいたるところにまだ土砂の山が残っていた。ミケランジェロのダヴリデで知られるアカデミアの奥の一角の、トスカナ派の作品は全滅であった。ガラス戸越しに、私は無造作に積み上げられた整理中のカンヴァスの山を見た。それはまるで大学の文化祭やデモの後の、プラカードを積み上げた自治会室のような有様だった。復旧には十年かかるでしょう、と案内人が言った。私はしかし、なんの不条理も感じなかった。芸術はすべていつかは亡びるべき運命にあるのである。一時的にでもそのことを忘れさせる巨大な西洋の美術館や博物館の方が、美の確実性に関する錯覚の上に成り立っている。一個の不条理のように私には思えたのであった。

私には驚愕だった。美術館という組織力は、「知識」を養うために存在するかのようになり、私には驚愕だった。
というの、ここでは、「美」があたかも不動の、絶対的の顔つきを帯びていて、美もまた、人間の感性という曖昧な武器を支えられて、辛うじて存在しつづけている不安定にして、流動的なものではないだろうか。恐ろしいような傑作が目白押しに並んで、たがいに効果が相殺されてしまう。フィッチやプラドの内部をいくとも往き来しているとき、私を襲ったのは、ただ、説明のしようもない孤独感だった。私が口もきけなくなるような「美」の放射能を浴びていたというのなら幸いである。そういう瞬間もあればこそ、美術館はくりかえし私にとって、旅の唯一の誘惑であった。が、美的感動とは、じつに気紛れで、相対的なものである。永年あつがれてきた作品の前に立つたとき、偶然、頭痛でも起していたりもうお仕舞いである。その反対に、同じ美術館を二度訪れる幸運にめぐまれ、一年位の間感動の質がまったく変わっていることに気づいて、私は自分の感性の細りなさをかみしめた。だが、「美術館」の方は前に見たときと少しも変わっていない。おそらく十年後にまたたび訪れて同じことだろう。「保存」という近代的な意志にささえられて、「美」があたかも絶対的なものであるかのように、無教に蒐集され、陳列され、静止している美術館では、作品の美もまた後の歴史が不断に創造しているのだという事実を忘れさせやすい。一枚の絵はカンヴァスと絵具から成り立つ物質でしかないのである。多くの日本人がこらみているヨーロッパ美術行脚も、イタリアから北上してフランスへ行ったか、フランスを見てからイタリアに南下したか、旅の行程に応じて幻影が織りなす感動の質も変わってこよう。だが、頼りべきものは、その感動の人間のあやふやさ以外にはないのであって、作品とは幻影であり、けっして実体ではないことを忘れてはならない。

私には驚愕だった。美術館という組織力は、「知識」を養うために存在するかのようになり、私には驚愕だった。
というの、ここでは、「美」があたかも不動の、絶対的の顔つきを帯びていて、美もまた、人間の感性という曖昧な武器を支えられて、辛うじて存在しつづけている不安定にして、流動的なものではないだろうか。恐ろしいような傑作が目白押しに並んで、たがいに効果が相殺されてしまう。フィッチやプラドの内部をいくとも往き来しているとき、私を襲ったのは、ただ、説明のしようもない孤独感だった。私が口もきけなくなるような「美」の放射能を浴びていたというのなら幸いである。そういう瞬間もあればこそ、美術館はくりかえし私にとって、旅の唯一の誘惑であった。が、美的感動とは、じつに気紛れで、相対的なものである。永年あつがれてきた作品の前に立つたとき、偶然、頭痛でも起していたりもうお仕舞いである。その反対に、同じ美術館を二度訪れる幸運にめぐまれ、一年位の間感動の質がまったく変わっていることに気づいて、私は自分の感性の細りなさをかみしめた。だが、「美術館」の方は前に見たときと少しも変わっていない。おそらく十年後にまたたび訪れて同じことだろう。「保存」という近代的な意志にささえられて、「美」があたかも絶対的なものであるかのように、無教に蒐集され、陳列され、静止している美術館では、作品の美もまた後の歴史が不断に創造しているのだという事実を忘れさせやすい。一枚の絵はカンヴァスと絵具から成り立つ物質でしかないのである。多くの日本人がこらみているヨーロッパ美術行脚も、イタリアから北上してフランスへ行ったか、フランスを見てからイタリアに南下したか、旅の行程に応じて幻影が織りなす感動の質も変わってこよう。だが、頼りべきものは、その感動の人間のあやふやさ以外にはないのであって、作品とは幻影であり、けっして実体ではないことを忘れてはならない。

問1

a・bの読みをそれぞれひらがなで記しなさい。解答番号は a 1 b 2

1 蒐集 2 氾濫

同時代人よりもイタリア・ルネサンスの本質を理解していたと言われる。ヨーロッパ各国の美術館を短期間に次から次へ、矢継ぎ早に見て廻った「教養人」に過ぎない私は、経験の量がふえるにつれて、しだいに自分で何をしているのか解らなくなってきた。私は「感動」という言葉に警戒している自分自身にいくたびも気がついた。しかし経験の量が豊富であることが理解を深めないと言っているのではない。森有正氏ではないが、「経験」ということは意味が厄介なものにもある。そもそも「自己」をたないような人がいくら経験を積んでも、さもない話題さかしの、薄っぺらな体験集に終るだけであることは明瞭であるとしても、今度は逆に「自己」などというものを容易に信じている人には、経験によってなにかが新しく開かれ、ということも起り得ない。私が帰国して間もなく、東京でレンブラント展が開かれた。たまたま複製ではなく、本物のレンブラントの肖像画の幾枚かが日本人の目にもふれたわけだが、しかし、そういう企て自体が、いかにも私には複製画的にみえたのである。むろん日本に渡ってきたのはオランダである。レンブラントを代表する最高傑作が来ていないというようなことが問題なのではない。ミロのザイナスという最高の作品が上野で展示されて、大群衆をよんだが、それはゴッパが来て同じことで、いや、そういう企てが、美術全集のページをくって美的感性をひたすら研ぎすませた日本人の、「自己」というものには、いかにも見合った程度に抽象的だということも言いたいのである。今では西洋の芸術に関し、われわれのなかには西洋人以上に美食家である人が多い。閉じられた円周のなかで、「自己」を信じておとどき易いことではない。ヨーロッパ美術行脚にも意味があるなら、この円周を打ち破り経験を意識的にくぐりかえすことにある。代用品ばかり食べてきた味覚は、本物に飢えているのでは必ずしもなく、むしろ空想上本物に食傷して、空想と現実との区別が容易にたかなくなってしまったのである。永年の念願がかなってギリシャ旅行をしたある美術評論家が、アクロポリスのパルテノンを見たとときの、書き立つような感動を綴った美文調の文章を書いていたことがある。西洋芸術に関するこの種の感懐語は日本ではいたるところに溢れているが、私はこの文章をよんだとき、ある言ひようもない猥褻感をおぼえた。どうしてそんなに容易に感動できるのか、私にはさっぱり解

知らない。アテネ空港からまっすぐアクロポリスにやってきました。いきなり見上げた丘の上のパルテノンがどんなに荘厳で美しくみえたとしても、写真や文献でつみ重ねてきた専門家としての知識、言いかえれば、空想が豊富であっただけに、純粋な感動はそれだけ得にくくなっているようにも思えるのが自然ではないか。だが、西洋の芸術に関する限り、不思議なことに、知識をもつて日本人ほど感動と感懐とを混同する。この人はおそらくパルテノンを見よううちに、飛行機で羽田を飛び立ったときに、すでに「感動」して、いたに違いないのである。

注
* フィッチ イタリア、フィレンツェのウフィツィ美術館
* プラド スペイン、マドリッドのプラド美術館
* クレラミューラー オランダ、エーデルのクレラ・ミューラー美術館
* 森有正 一九二一—一九七六、哲学者、人間を定義する中心概念として経験を重視した思想を開いた。